

羽田小学校

児童数 117人
所在地 水沢羽田町字洗田 362 番地 ☎ 7403



羽田小学校は、水沢の中心市街地から東へ4キロほどのところに位置しています。高台にある学校からは、北上川流域に広がる豊かな水田地帯や多くの鑄物工場、新幹線の高架や水沢江刺駅を一望することができます。

校歌の一節に「空には工場のでつかけむ」とありますが、羽田町はおよそ900年以上の伝統を誇る鑄物産業の町でもあり、南部鉄器は世界的に高い評価を得ています。また、学区内にはさまざまな医療・

福祉施設が集まっており、施設を利用する皆さんとの交流は、本校の特色ある教育活動の一つとなっています。

伝統的な活動に、5・6年生によるスクールバンドがあります。金管楽器を中心とした構成に、打楽器や鍵盤楽器が加わります。昨年度からは、メロディー・ジャックスの皆さんに指導していただいています。

主な発表の場は、学校のふれあい運動会（5月）、地区民運動会（8月）、羽田町火防祭（3月）などで、



上達を目指して日々練習

地域の皆さんもとても楽しみにしています。また、2年後に予定されている新小谷木橋の開通式では、「北上夜曲」の演奏を披露する予定です。

福祉施設の皆さんとの交流

学区内にはたくさんの福祉施設があり、1年生から6年生まで、それぞれの発達段階に応じた交流活動を行っています。1・2年生と3・4年生は施設を訪問し、歌やダンス、対話や肩もみなどを通じて交流を深めています。5・6年生は、施設に入所している皆さんを学校にお招きし、ゲームやスポーツを通じた交流を深め、自分たちにできることは何かを考え、相手を思いやる気持ちやお互いに支え合う気持ちを育む場となっています。



ゲームを通じた交流

受け継がれていく鑄物太鼓



真剣な表情で練習中

平成8年度から地元の郷土芸能の一つである鑄物太鼓に取り組んでおり、今年で23年目を迎えました。指導して下さるのは、創始者でもある佐藤洋一さんと古玉格さんです。羽田町は古くから鑄物の町として

栄えてきましたが、この鑄物太鼓は、工場で鑄物が誕生する様子を太鼓の響きで表現したものです。

4年生になると、実際に鑄物作品を作る体験に取り組み、郷土に伝わる鑄物文化の素晴らしさに触れます。2学期になると、本格的に鑄物太鼓の練習が始まり、練習会場には威勢のよい太鼓の音が鳴り響きます。学習発表会、幼小文化発表会、地元で行われる羽田躍進祭りなどで披露し、皆さんに喜んでいただいています。

学校通信

苦労や喜びを学ぶ場として

学区内に広がる豊かな水田で、5年生が地元の皆さんの指導のもと稲作体験に取り組んでいます。田植えに始まり、稲刈り、脱穀に至るまで、昔ながらの手作業による米づくりに挑戦します。体験を通じて、昔の米

づくりの苦労や喜び、願いなどを学ぶ大切な機会となっています。

11月には、指導して下さった皆さんをお招きして、収穫感謝祭（お米パーティー）を行います。子どもたちが、おうちの皆さんの協力を得ながら、炊き上がったお米をおにぎりなどにして、収穫の喜びを味わいます。



稲の刈り方を教わる子どもたち

いいとこ、知っとこ、おうしゅう

地区センター単位で各地区を紹介します



田原地区

拠点 田原地区センター
(江刺田原字深沢 166 番地 1
☎ FAX 2131)

田原地区は江刺の南端に位置し、水沢江刺駅や水沢インターチェンジから近く、東西に国道397号が横断、南北に国道456号が縦断しています。そのため、交通の便がよく、江刺の南の玄関口となっています。

昭和41年9月に田原地区の教育文化、産業経済の振興を目的として誕生した田原振興会では、発足当時から多くの事業を展開しています。振興会設立以来開催されている田原地区民体育祭は、今年で50回を迎えました。また、毎年盛り上がりを見せる敬老会、隔年開催の文化祭、福祉演芸会など、田原地区で暮らしている人々をつなぐイベントを

開催しています。平成28年4月には他の振興会に先駆けて、市の提唱する指定管理者制度を導入しました。指定管理者として単なる施設の維持管理だけではなく、制度を活用しながら「自治会と振興会の活動の一体感」が持てるような地元密着の活動ができるよう、自治会と連携してさらなる活性化を目指しています。

高齢化の進行、世帯数の減少と問題もある中、地区センターが地域活動の拠点として地域住民に親しまれ、より活用されることで「住みつけたい わたしたちのふるさと 田原」のスローガンを実現できるように取り組んでいます。



田原地区の2つの小学校の親睦を深めるために始まった「青少年交流会」。田原小学校と大田代小学校の5・6年生を対象に、同じ地域に暮らし、未来を担う子どもたちの交流を推進するために昭和57年から継続して開催しています。年々子どもの数が減っている中、田原地区の子どもたちの団結を深めるよい機会となっています。

田原地区では国道や県道などの主要道路が通っている特長を生かして、平成17年から24年にかけて“水仙”約35,000球を、23年から24年にかけて“彼岸花”約25,000球を7つの自治会ごとに植栽し、「フラワーロード」として環境美化に取り組んでいます。水仙は4月中旬から下旬、彼岸花は9月中旬から下旬にかけて見頃を迎え、多くの人たちを楽しませてくれます。



「田原地区民体育祭」は体力づくりや健康維持、そして地区民の親睦交流の場として親しまれてきました。毎年、スポーツによる地域の活性化とコミュニケーションの機会を提供しながら、今年で50回目の開催という記念すべき年になりました。伝統の体育祭は今後も引き継がれていきます。



「シニア大学」は田原地区の高齢者一人一人が生きがいを持ち、健康的な生活を送るための学習活動と交流の場を提供しています。移動研修や講話などを楽しみながら、地域の人たちがつながるきっかけにもなっています。

文化祭は田原地区民の文化活動の発表と鑑賞の機会をつくり、文化の香り高い地域を目指すことを趣旨として開催しています。福祉演芸会は歳末助け合い運動の実施に合わせて、さまざまな支援を必要としている人たちのために会場内で募金活動を行い、地域住民や団体などの協力を得て開催しています。演芸発表では各地区の団体の歌や踊りが披露され、大変盛り上がりします。



福祉演芸会（スコップ三味線）